

# あたらしくはいった本 (平成29年12月 貸出開始資料から)

- 小説 秀吉の活(木下昌輝/著) カネと共に去りぬ(久坂部羊/著) インフルエンス(近藤史恵/著) 呉漢 上・下(宮城谷昌光/著) 火定(澤田瞳子/著) 駐在日記(小路幸也/著) 大獄(葉室麟/著) メガネと放蕩娘(山内マリコ/著) スパイたちの遺産(ジョン・ル・カレ/著) 櫻を我が手に(蓮見恭子/著) 逃亡刑事(中山七里/著) デッド・オア・アライブ(楡周平/著) 痴漢冤罪(新堂冬樹/著)
- 随筆・詩などの文学 道なき未知(森博嗣/著) 太陽と乙女(森見登美彦/著) かるい生活(群ようこ/著) 群れるな(寺山修司/著) 清張鉄道1万3500キロ(赤塚隆二/著) 短歌でめぐる九州・沖縄(桜川冴子/著) 桃紅一〇五歳好きなものと生きる(篠田桃紅/著)
- その他の本 おうちで学べる人工知能のきほん(東中竜一郎/著) 注文をまちがえる料理店(小国士朗/著) おもしろ張り子(前田ビバリー/著) ロボット法(平野晋/著) うちの鳥の老いじたく(細川博昭/著) カラーライフ図鑑(山本規詔/著)



## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

平成30年	日	月	火	水	木	金	土
2	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28			

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。



## 明治維新150年特集

### 山本忠亮至誠の魂

大正2(1913)年10月21日、延寿王院の山門前で七卿西竄碑の除幕式が行われます。文久3(1863)年8月18日の政変により京を追われ西下することとなった七卿の姿を刻んだこの碑は、蓑笠姿での離京から50年という節目に建てられました。来賓として式典に招かれたのは、慶応元(1865)年から同三年の間、三条実美ら五卿に従って太宰府に滞在した志士、土方久元と尾崎三良です。土佐藩郷士が出自の土方は、明治期に農商務大臣や宮内大臣を務め、伯爵に叙せられています。

「という歌を残し、ここ太宰府で自刃しました。享年25(瑞山会編『維新土佐勤王史』他)。

除幕式で土方とともに往年の懐旧談を披露した尾崎は忠亮のことに触れ、彼の決心を、幕府目付小林甚六郎の来宰と結び付けて語っています(『福岡日日新聞』。慶応2年、五卿の帰洛を促すため幕府は小林甚六郎を太宰府へ派遣しますが、五卿側は幕府による五卿勾引の一大危機と警戒、五卿も書面をもって従臣たちに不動の決意を示し、殉難の覚悟を告げます。五卿の近辺にはわかたに緊迫し、「薩士は殺気勃勃、毎日大砲を太宰府の裏手なる北谷村辺に牽き出し、火通しと号して連発し、其の響轟々として幕吏の胆をぞ冷しける」(『維新土佐勤王史』)状況となり、この中で忠亮は慚愧の決断に至ったと回顧しています。



～公文書館だより④～

その死を惜しむ五卿は金子15両を、さらに実美は20両と手向けの歌を忠亮に贈りました(『回天実記』『維新土佐勤王史』)。

剣太刀吾身のうきに添ひ来つつ

旅路の露と消し人はも

墓碑は後に大町の光蓮寺に移され、忠亮の至誠の痕を現在に伝えていきます。

太宰府市公文書館 藤田 理子